

もり そういち
森 莊巳池 (本名: 佐一) 略歴

- 明治40年(1907) 5月3日盛岡市新穀町に生まれる。
- 大正14年(1925) 盛岡中学校4年生の時宮沢賢治の訪問を受ける。
岩手詩人協会、岩手歌人協会を組織。
- 大正15年(1926) 東京外国語学校に入学。
- 昭和 2年(1927) 病気のため中退し、帰郷。
- 昭和 3年(1928) 岩手日報社入社。昭和14年退社まで週1回の学芸欄を編集。
- 昭和 6年(1931) 岩手日報社学芸部長となる。
- 昭和15年(1940) 小説集『店頭』(「店頭」「修身教師」「氷柱」「辛夷と鳥揚羽」
「浅岸村の鼠」「みそさざい」「山村田山雑記」「農事試験場参観日」
「近郊盗人伝」)が芥川賞候補となる。
- 昭和19年(1944) 『蛾と笹舟』『山島』で第18回直木賞受賞。
- 昭和57年(1982) 勲四等瑞宝章、盛岡市市勢振興功労者を受賞。
- 平成11年(1999) 3月13日逝去、盛岡市大泉寺に眠る(91歳)。



盛岡市鉦屋町出身の詩人・直木賞受賞作家、森莊巳池。数個のペンネームを持ち、岩手日報等へしばしば投稿していた佐一(莊巳池)は、盛岡中学校時代に宮沢賢治の訪問を受け、その交友は二人の間を往復した二十一通の書簡により、いっそう深められてゆきます。賢治の研究者としても筆を取り続けた森莊巳池は、生涯を通じて、文学的にも人間的にも大きな影響を受けることになりました。

— あなたがもし北小路幻氏であれば
わたしは前からあなたを尊敬してゐます

宮沢賢治から森佐一(莊巳池)宛てた書簡より



『生と死と』(玄文社 1946年)



『宮沢賢治の肖像』(津軽書房 1974年)

展示内容

- ・ 森莊巳池(佐一)の幼年時代
- ・ 佐一『春と修羅』に感動
- ・ 佐一と賢治の交流 — 店頭での出会い
- ・ 宮沢賢治から森佐一に宛てた書簡
- ・ 十字屋版『宮沢賢治全集』の編集
- ・ 芥川賞候補、直木賞受賞について
- ・ 宮沢賢治をめぐる『ふれあいの人々』……

ギャラリートーク

ゲスト: 森 三紗氏(森莊巳池氏四女)

日時: 令和2年2月29日(土) 午後2時~

会場: 当館2階 展示ホール

*先着50名様程度の着席を予定しております
(予約不要・直接会場へお越しください)



芥川賞候補小説集『店頭』(三藝書房 1940年)と当時の盛岡劇場

